

# 1980年-1989年

1980年	「中部リサイクル運動市民の会」発足(事務所 / 東区東新町東新ビル[当時])
	量販店で初めてのガレージセール開催(半田市・サンテラス乙川店)
1981年	不用品データベース(不用品情報登録紹介システム)開設
	『月刊リサイクルニュース』創刊
	初めてのガレージセール(不用品青空市)を開催(東区・名古屋トヨペット東営業所)
	空き缶回収キャンペーン開始
1982年	「コミュニケーションボード」第1号を千種区・サンテラス千代田橋店に設置
	朝日新聞のリサイクル欄を担当
	資源回収キャンペーンで、半田市・サンテラス乙川にて定期回収が始まり、その後7か所に広がる
	東海ラジオ「モーニングエコー」(週1回)でリサイクル情報の放送が始まる
1983年	中京テレビ「奥さま街角情報」(週1回)でリサイクル情報の放映が始まる
	第1回「あなたの手作り&リフォーム作品展」を名東区・メイトピアで開催
1984年	天神崎市民地主運動(和歌山県田辺市)の中部における連絡窓口として活動開始
	岐阜県で初めてのコミュニケーションボードを各務原市・フジヤホームセンターに設置
	第3回ヒューマンカーニバルにて「おもちゃのリサイクルフェア」開催
	第100回の記念ガレージセールを千種区・サンテラス千代田橋店で開催
	「有機農業生産者ネットワークの集い」を開催
	第1回食と健康フェスティバルを北区・ダイエー上飯田店で開催
	中部リサイクル運動市民の会事務所を移転(事務所 / 東区東桜光ビル[当時])
	事務所内に「手づくりサロン」を開設、「手づくりCLUB」本格的に活動開始
1985年	「日本日曜大工クラブ名古屋支部」の事務局として活動開始
	『岐阜日日新聞』(現『岐阜新聞』)にリサイクルコーナーができる
	「有機農業者ネットワークの会」正式発足
	三重県で初めてのコミュニケーションボードが津ダイエーセンターパレス店に誕生
	『中日新聞』リサイクルコーナーの担当を開始(電話回線を2つから4つに増やす)
	「古本のリサイクルフェア'85」を企画、活動開始(国際青年年協賛行事)
	『月刊リサイクルニュース』販売書店が、岐阜・三重方面にも広がる
	中部リサイクル運動市民の会も参加して「牛乳パック回収運動を進める連絡会」が結成される
	「古本のリサイクルフェア'85」ユニーサンテラス千代田橋・サンテラス一宮・サンテラス刈谷の3会場で販売フェア開催
	自給野菜セットの共同購入グループ「にんじんCLUB」活動開始
	「国際青年年・青年カーニバル」(鶴舞グラウンド)で「古本のリサイクルフェア'85」最終販売フェアとフリーマーケット(古本収益1,000万円を達成)
	古本収益金1,000万円の寄託式(日本国際ボランティアセンターに全額寄付)
	「NTTタウン誌フェスティバル」で『月刊リサイクルニュース』がタウン誌大賞を受賞
1986年	「にんじんCLUB」活動の一環として、天白区に農場を持つ(にんじんCLUB農場)
	「古本のリサイクルフェア'85」の一環で、アフリカ派遣スタッフがソマリアに行く
	『日刊アルバイトニュース』(現『an』)に「リサイクルコーナー」ができる
	全国の草の根団体・個人が乗り込んでの一大企画「ばななぼうと」にスタッフ全員参加

1987年	「にんじんCLUB」野菜セット、知多半島の生産者「てんとう虫グループ」の出荷が始まる
	「もう一つの就職説明会」を開催
	徳島暮らしをよくする会・共生社生協連合・日本ネグロスキャンペーン委員会と共同で、フィリピン・ネグロス島と草の根貿易を開始。マスコバド（黒砂糖）10トンを入力
	「第1回全国牛乳パックの再利用を考える全国大会」（山梨県・大月市）に参加
	『月刊リサイクルニュース』初の別冊特集『あなたの街のリサイクルショップ100』を刊行
	「第三世界ショップ」が事務所3階リサイクルサロン内にオープン。手づくり作品や材料の販売も開始
	『月刊リサイクルニュース』がサークルKでも販売されるようになる
1988年	「にんじんCLUB」の扱い品目が調味料にまで広がる
	アルミの水筒の注文が殺到（にんじんCLUB）
	中部リサイクル運動市民の会の事務所、3度目の引っ越しをする（事務所 / 東区徳川[当時]）
	中部リサイクル運動市民の会直営の八百屋「地球村の八百屋さん」がオープン
	衣から暮らしを見直す「ライブコットンクラブ」誕生。無蛍光・無漂白の肌着の扱いを始める
1989年	『月刊リサイクルニュース』創刊100号を迎える
	「にんじんCLUB」のスタッフの大半が退職し、新組織を結成
	「にんじんCLUB」の自給野菜セットの会員募集
	フリーマーケット部門独立

## 1990年-1999年

1990年	「ゴミ鳥シンポジウム」参加
	CBCテレビ「ミックスバイクださい」リサイクルコーナーに参加 (月1回)
	リサイクルニュース連載「絵コロジ」第1版を小冊子として発行
	新聞古紙100%再生紙「エコペーパー100」がデビュー
	ワープロ・パソコン通信サービス「中日ネット」(中日新聞社) 開局、中部リサイクル運動市民の会のコーナーができる
1991年	「エコペーパー100」新パッケージで本格販売スタート
	生ごみコンポスト「エコロエース」の販売を始める
	アメリカ人スタッフが活動に参加
	『月刊リサイクルニュース』が4月号よりリニューアル。ページが増え、価格は260円から350円に
	「<リサイクルシティNAGOYA>バックUP作戦No.1・リサイクルステーション」計画を発表、 「市内20か所にリサイクルステーションを」と呼びかけを始める
	リサイクルステーションを市内2か所でスタート (港区・フジヤホームセンター / 東区・正文館書店本店)
	有機流通センターとして「株式会社にしじん」を小牧市に設立
1992年	「エコペーパー100」のノートなど文具製品を、製紙メーカー・販売協力者・市民団体などで共同開発
	不用品情報がついに月400件を突破
	「西日本リサイクル運動市民の会」立ち上げのため、博多より「北九州グリーンコープ」の小池氏が1か月の研修に来る
	'92年度よりリサイクルステーションへの名古屋市の助成が決定
	CBC環境キャンペーンからリサイクルステーションへの資金援助が始まる
	「緑ゴミティテーブル」開催 (緑区・西友鳴海店)
	スタートから1年、『リサイクルステーション白書』を制作
1993年	名古屋市の不用品交換情報誌『月刊くるくる』の準備号完成 (中部リサイクル運動市民の会が編集制作業務を請け負う)
	ゴミゼロアクション (5月30日)
	生ごみ発酵処理剤「ポアソイル」のモニター説明会開催
	『月刊くるくる』創刊号完成
	牛乳パック100%再生板紙「ミルクラフト」(工作キット) 取り扱いスタート
	『月刊リサイクルニュース』で「13年目の不用品データバンク白書」特集
	生ごみ処理剤「ポアソイル」の通販スタート
	兄弟団体「西日本リサイクル運動市民の会」(北九州) 設立される
	『月刊リサイクルニュース』の表紙が牛乳パック100%使用の再生紙に
1994年	全国版グリーンコンシューマー買い物ガイド『地球にやさしい買い物ガイド』調査開始
	「自立のための道具の会」の事務所を中部リサイクル運動市民の会事務所内に設置
	NHK・民放ラジオ5局の共同番組「スーパーネットワーク・ラジオでアクション! リサイクル」に参加
	名古屋市が生ごみモニターを実施。モニター300人のうち150人を対象にポアソイルを使用
	村上康成氏のイラストを使用した新エコペーパーノートを共同記者発表
	「愛知県地域づくり洋上セミナー」環境リサイクル分科会テーマコーディネーターとして参加
	リサイクルステーションに'94年度環境事業団「地球環境基金」からの助成が決まる
	TV愛知系列でリサイクルステーションが全国放映
	新エコペーパーノートが発売以来8万冊を突破
	全国4団体による『地球にやさしい買い物ガイド』講談社より出版

1995年	名古屋市の「生ごみ堆肥化促進剤モニター報告会」に参加
	「エコパー100」シリーズにレターセット・メモ帳・色鉛筆デビュー
	「株式会社トキワ」と協議していた「オフィス古紙リサイクル」構想がまとまる
	不用品データベースに「地球環境基金」からの助成が決まる
	「名古屋市生ごみ堆肥化容器購入補助」の容器指定業者の認可を受ける
	「トナーカートリッジリサイクル部」(現 株式会社トキワ ティー・シー) の販売を担当
	「フリーマーケット イン光の広場」の第50回目を開催
	アメリカNPO (非営利組織) の視察
	「エコキッズクラブ」第1弾「ちびっ子リサイクラー大集合！」西友高針店にて開催
	パソコンによる不用品情報の管理を始める
	『リサイクルステーション白書～3年半の歩みを振り返って』完成
	11月、全国NTTタウン誌フェスティバルでタウン誌大賞・奨励賞を受賞
	美浜町制40周年記念事業「自然との共生を目指すまちづくりシンポジウム」に協力参加
	1996年
「イギリスにおけるNPO/NGO活動調査 (国際交流基金)」に参加	
「青年リサイクル運動世界フォーラム」(名古屋国際センター) の実行委員会に参加	
生ごみ発酵促進剤「EM-Xセラミック テラ」製品化	
愛知県「環境保全特別功労」の表彰を受ける	
「気候フォーラム」に呼びかけ団体として参加	
「働き方・暮らし方を考える見本市～エコロジカルなモノと人との大交流会」を開催 (中小企業センター)	
11月、全国NTTタウン誌フェスティバルタウン誌大賞・地域コミュニケーション賞を受賞	
1997年	'97年度「地球環境基金」に「市民・企業・行政のパートナーシップによるオフィス古紙のリサイクルシステム作り及びグリーン購入システム作り」で申請
	「エコリーグ中日本」(全国青年環境連盟中日本ブロック) が中部リサイクル運動市民の会事務所に事務所を設置
	名東区平和が丘学区保健委員が、学区内にリサイクルステーションを設置したいと中部リサイクル運動市民の会に相談
	第1回「EM-Xセラミックス テラ モニター説明会」開催『絵コロジエ改訂3版』発行
	『月刊リサイクルニュース』の今後を語ろう』座談会開催 (中部リサイクル運動市民の会事務所)
	「グリーンコンシューマー全国ネットワーク」設立総会に発起団体として参加
	「子供が創るエコロジーライフ～ごみ編」(環境教育プロジェクト'97助成事業) 始まる
	環境教育ミーティング中部プレミーティングにて事務局を担当
	シンポジウム「事業系ミックス古紙の地域リサイクルシステムを作ろう」開催
1998年	『グリーンコンシューマー買い物ガイド全国版』の調査に参加
	17年間発行を続けた『月刊リサイクルニュース』の最終号を発行
	『環境総合誌 E's (イーズ)』を創刊
	「もうひとつの働き方大交流会」と「エコメッセ名古屋'98」開催
	「環境教育ミーティング中部'98」に参加
	第1次事業系ミックス古紙回収実験開始
	『かんたん・たのしい・うれしい生ごみリサイクル』ブックレット完成
	リサイクルステーションが7か所増設され、全17か所に。「市民がつくるリサイクルシステム」シンポジウム開催
	「E'sセミナー」シリーズ始まる

1999年	「ゼロエミッションフェア」(日刊工業新聞社)に協力参加
	新通信販売システム「ぐりんめいる」開始
	『環境総合誌 E's』第5号で、独自のごみ減量行動プランを発表
	東京でもE'sセミナーが始まる
	中部電力と環境教育プログラムを実施
	名古屋のごみ減量のための取り組みが、ハノーバー(ドイツ)万博の会場外プロジェクトに認められる
	『グリーンコンシューマーガイド東区版』のサポート事務局になる
	名鉄百貨店で「グリーン度診断」実施
	萩原代表が松原市長と対談「ほっと対談〜ごみ減量先進都市を目指して」
	O-net(オフィスリサイクルネットワーク)の事務局を中部リサイクル運動市民の会内に置く
	リサイクルステーションが30か所になる
	特定非営利活動法人(NPO法人)の認証申請へ
	「市民がつくる「名古屋ルール」フォーラム」を呼びかけ、世話人会が出初め式を開催

## 2000年-2009年

2000年	NPO法人(特定非営利活動法人)設立登記「特定非営利活動法人中部リサイクル運動市民の会」となる
	「E's・JCBカード」の会員・協賛店募集開始
	地域のネットワークづくりを目的に「生ごみリサイクル全国ネットワークin中部交流集会準備会」開催
	「市民がつくる名古屋ルールフォーラム・パート2」を名古屋市と共催
	「ごみ減量基金市民大フリーマーケット」開催
	中部リサイクル運動市民の会設立20周年記念パーティーを開催(千種区・吹上ホール)
	西川印刷株式会社と「環境経営研究会」を設置
	「E'sカード」会員紙『ぐりねっと』創刊
	「不用品情報交換システム」モニター調査実施
	ハノーバー万博と環境首都ハム市・ミュンスター市を視察(ドイツ)
	グリーンコンシューマーガイド東区版『やっぱりエコが好き!』発行
	循環型トイレ「モナレット」のLCA研究を完了
	名古屋商工会議所と「名商エコネット21」構想の協議開始
	「生ごみリサイクル全国交流大会」参加
2001年	リサイクルステーションで「なべ・やかん類」の回収を開始
	日進市から、市民参加による「一般廃棄物処理基本計画」策定を受託
	中部電力と協働で「記念日植樹券プレゼント事業」を開始
	『環境総合誌 E's』第16号を発行し、一旦休止
	スタッフ数が約10名に半減
	環境大臣より「地球温暖化防止対策功労(リサイクル部門)」の表彰を受ける
	名古屋市の不用品交換情報サービス「電話くるくる」の運営を受託
	愛知県より「あいち環境教育フォーラム2001」を受託
	凸版印刷と協働で、環境モニターシステム『エコラブルネット』を開始
	グリーン購入ネットワークより「第4回 グリーン購入大賞(民間団体部門)」受賞
2002年	津島市から、市民参加による「一般廃棄物処理基本計画」策定を受託
	西春町から、市民参加による「一般廃棄物処理基本計画」策定を受託
	グリーンコンシューマーガイド天白区版『天白区のエコを探せ!』作成をサポート
	愛知県より「あいち環境づくりネットミーティング」事業を受託
	'02年度地球環境基金の助成により「環境パートナーシッププラザの中部版を創ろう!」事業を実施
	'02年度地球環境基金の助成により「ヨハネスブルグサミット中部プロジェクト」事業を実施
	グリーンコンシューマーガイド北区版『エコまっぴ』作成をサポート
2003年	リサイクルステーションにおいて精神障がい者の就労支援を開始
	市民が創る循環型社会フォーラムとして、名古屋のごみ問題に関する「ステークホルダー会議」を開催
	第二回生ごみリサイクル交流集会 実行委員会に参加
	「万博非常事態宣言」を発表
	廃棄物学会で、市民参加による「一般廃棄物処理基本計画」策定事業について発表
	中部リサイクル運動市民の会事務所を移転(事務所 / 中区有信ビル[当時])
	グリーンコンシューマーガイド瑞穂区版『ぼつぼつエコまいか。』作成をサポート
	事務所に空き巣が入る
	不用品交換情報掲示板「コミュニケーションボード」終了

2004年	津島市から、市民参加による「津島市環境基本計画策定業務」を受託
	安城市から、「安城市環境アドバイザー養成講座」を受託
	NPO法人地域の未来・支援センターが当会オフィススペースに入居
	NPO法人エコデザイン市民社会フォーラムが当会オフィススペースに入居
	愛・地球博（愛知万博）の「瀬戸愛知県館」コラボレーション空間の県民参加プロジェクト活動をサポート開始
	市民が創る循環型社会フォーラムとして、名古屋のごみ問題に関する「市民会議」を開催
2005年	ホームページリニューアル（4月）
	愛・地球博（愛知万博）の「地球市民村」パビリオンに出展。テーマは「グリーンマップ」（8月～9月）
	2004年に引き続き、愛・地球博（愛知万博）の「瀬戸愛知県館」コラボレーション空間の県民参加プロジェクト活動をサポート
	リサイクルステーションの開催会場が35ヶ所に増加
	リサイクルステーションで、陶磁器（食器類）とインクジェットカートリッジを実験的に回収
2006年	リサイクルステーションの開催会場が44ヶ所に増加
	「なごや環境塾2006」の企画・運営をなごや環境大学実行委員会から受託
	循環型社会づくりをテーマにした参加型会議を主催する「なごや循環型社会・しみん提案会議実行委員会」に参画
	名古屋大学と協働でエコマネー活用型リターンブル事業実施可能性調査及び実証調査を実施
	市民がつくる豊田市環境学習施設の愛称が「eco-T（エコット）」に決定
	フリマメルマガ発刊
2007年	基本計画づくりと市民参画のコーディネートを行ってきた豊田市環境学習施設「eco-T（エコット）」がオープン。施設運営業務を担う
	萩原喜之から、永田秀和・和喜田恵介の共同代表へ代表交代
	津島市でリサイクルステーションの開催スタート
	リサイクルステーションで化粧びんの回収を開始
	ごみ減量20%をめざす安城市から「ごみ減量推進検討委託業務」を受託
	「エコ・コミュニティづくりのための愛知県全域グリーンマッププロジェクト」の一環で「グリーンマップ・インパクト」を発行する
2008年	古紙配合率偽装問題を受け、声明文を発表。「エコペーパー100」が多くのメディアに取り上げられる
	名古屋大学と協働で、「なごやリユースステーション」「なごやリユースびんルール」実証事業を実施
	豊田市環境学習施設「eco-T（エコット）」が、オープン後1年4ヶ月で来館者3万人を達成
	スペインの「サラゴサ万博」にNGOユニットとして出展参加
	グリーン電力普及をめざす「グリーンLights X'mas」キャンペーンを開催
	古紙や原燃料高騰のため、「エコペーパー100」のメーカーが製造を中止。1980年から普及を続けてきた「エコペーパー100」の販売を断念する
2009年	「リユースステーション」を自主事業としてリニューアルスタート
	「使用済小型家電の回収モデル事業」を環境省と経済産業省より受託
	ファンディングイベント「愛フェス2009」でエコステーションを運営
	常設のリユース&リサイクルステーション「エコロジーセンターRe☆創庫」がプレオープン

## 2010年-2018年

2010年	リユース品提供の場としてRE☆びらす (りびらす) を実施、リユース&リサイクルステーションの一部会場に併設
	豊田市環境学習施設「eco-T (エコット)」の運営を、新NPO「とよたエコ人 (えこびと) プロジェクト」へ移行
	初のレンタル事業として、名古屋市より名古屋市三人乗り自転車貸出事業を受託
	「エコロジセンターRE☆創庫 (りそうこ)あつた」がグランドオープンし、リユース事業を本格的に始動
	愛フェス2010でNPO向け連続講座「ファンドレイジングプロ育成講座」をコーディネート
2011年	東日本大震災被災地支援活動を実施
	碧南市家庭ごみ減量検討市民会議をサポート
	「エコロジセンターRE☆創庫 (りそうこ) 春日井」オープン
	中日新聞リサイクル欄終了、30年続いた不用品情報交換活動に幕
	「第5回共生 (ともいき)・地域文化大賞」奨励賞受賞
	エコロジセンターRe☆創庫において精神障がい者の就労支援を開始
	(平成23年度は、日本郵便年賀寄附金の助成を受けて実施)
2012年	「チャリティボックス」の社会実験をスタート
	宅配便によるリユース品の寄付受付を開始
	かばん、くつのリユースを開始
	「がんばっぺ! いわき 復興応援☆ リメイク品フェア」を開催
2013年	全国のキリンビアパークにおける環境学習プログラム制作に参画
	中部リサイクル運動市民の会事務所が移転(事務所 / 東区日本陶磁器センタービル [現住所])
	キッチン用品のリユースを開始
	社会貢献型リユースショップ全国フォーラム in 横浜を開催
	「不用品をリユースしてお得にCO2を減らそう大作戦2013」がスタート
	チャリティマーケットを市内各地で開催
2014年	「エコロジセンターRe☆創庫さくら」開設
	寄付品の受付と販売を専門とする「Re☆ショップよしの」開設
	独立行政法人国際協力機構(JICA)による海外の研修員向け廃棄物管理研修の企画・運営を受託開始
2015年	フードバンク「セカンドハーベスト名古屋」との活動連携スタート
	障がい者による仕分け事業をRe☆創庫あつたで開始
	食器の海外リユース事業を開始
	英国の「チャリティー小売業協会(Charity Retail Association=CRA)」が主催する大会を視察
	「日本チャリティーショップ・ネットワーク」の設立に参画
2016年	障がい者による仕分け事業をRe☆創庫さくらでも開始
	全Re☆創庫・Re☆ショップで「フードドライブ」を実施
2017年	「インテリア雑貨」「CD・DVD」「おもちゃ」「園芸・DIY用品」「スポーツ・レジャー用品」「日用品」「文房具」がリユース品目に加わる
	カンボジア、ラオス、フィリピンのリユース&リサイクル状況を視察
	Facebookによる情報発信スタート
2018年	Re☆創庫春日井が閉店
	認定NPO法人としての指定を受ける